

取組の柱③：多層的な連結性

事例③①：「知」の連結性強化

1. 基本的な考え方

- 世界の分断を防ぎ共存共栄を追求する上で最も重要なのはヒトとヒトの繋がり。
 - 更に、技術の進歩が速まり人材の流動化が進む中で、インド太平洋が成長を続け世界経済を牽引していくためには、「知と知が会う」新たなイノベーションを生み出す環境が必要。
- ⇒「人作り」を要としつつ知恵の交流を促す「知」の連結性を高めることで、活力あるインド太平洋を維持・強化。

2. 具体的な取組

- 次世代を担う若者を中心とする人的交流や文化交流を強化し、各界での活躍や人的ネットワーク構築を後押し。
(例) JENESYS (アジア大洋州)、アジア高校生架け橋プロジェクト+、日本語学習支援
- 研究者・実務家の育成やビジネス交流を通じて、相互のネットワークによる研究・発信や知見の共有、新たなイノベーション・ビジネス機会の創出を促す。
(例) FOIP実現のためのフェローシップの創設、海外特別研究員事業、外国人特別研究員事業、若手研究者海外挑戦プログラム、国際青少年サイエンス交流事業、MICEの誘致・開催の促進
- 高等教育段階の交流の活性化
(例) 大学の世界展開力強化事業、スーパーグローバル大学創成支援事業等、学生交流のための経済支援の強化
- 相手国・地域のニーズに応じた国際共同研究推進
- 観光交流の回復、諸外国等との連携による観光協力の強化
(例) 戦略的な訪日プロモーションの実施、諸外国との海外教育旅行の促進、日ASEAN観光大臣特別対話の開催

